古文単語 現代語訳の誤りを直す ④

高校／敬語・打消の取り違えにも気づいて直す

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

各問に原文と訳が1つずつあり、訳には意味の取り違えが1か所あります（誤りが無い訳も1つ）。
訳から誤りの語句だけを短く書き抜いて「誤りの語句」の欄に、正しい訳を「正しい訳」の欄に書く。
誤りが無ければ「誤りの語句」と「原因」の欄に「なし」と書く（「正しい訳」は空ける）。
原因は「原因」の欄に記号で答える。ア＝現代語の意味のまま訳した　イ＝その語の別の意味を選んだ
ウ＝尊敬と謙譲を取り違えた　エ＝打消（〜ない）を落とした・見落とした

1 原文　手の悪き人の、憚らず文かきちらすはよし。見苦しとて人に書かするはうるさし。（徒然草・第三十五段）

訳　字の下手な人が、遠慮せず手紙を書き散らすのはよい。見苦しいからといって人に書かせるのは騒がしい。

誤りの語句	正しい訳	原因

2 原文　灌仏のころ、祭のころ、若葉の梢すずしげに繁りゆくほどこそ、世のあはれも人の恋しさもまされと、人のおほせられしこそ、実にさるものなれ。（徒然草・第十九段）

訳　灌仏会の頃、祭の頃、若葉の梢が涼しそうに茂っていく頃は、世のしみじみとした趣も人の恋しさもまさると、ある人が申し上げたのは、実にそのとおりである。

誤りの語句	正しい訳	原因

3 原文　……太秦にこもりたるに、宮にかたらひ聞ゆる人の御許より文ある。（更級日記）

訳　……太秦にこもっていたところ、宮に説得し申し上げる人のもとから手紙が来る。

誤りの語句	正しい訳	原因

4 原文　たとへば碁をうつ人、一手もいたづらにせず、人にさきだちて、小をすて大につくが如し。（徒然草・第百八十八段）

訳　たとえば碁を打つ人が、一手もむだにして、人に先んじて、小を捨てて大につくようなものだ。

誤りの語句	正しい訳	原因

5 原文　久我の相国は、殿上にて水を召しけるに、……（徒然草・第百段）

訳　久我の相国は、殿上の間で水をいただいたところ、……

誤りの語句	正しい訳	原因

6 原文　大社を遷して、めでたく造れり。（徒然草・第二百三十六段）

訳　大社をうつして、すばらしく造ってある。

誤りの語句	正しい訳	原因

7 原文　我子の仏変化の人と申しながら、ここら大さまで養ひ奉る志おろかならず。（竹取物語）

訳　我が子は仏の化身の人と申しますが、これほど大きくなるまでお育て申し上げた私の志は、いいかげんである。

誤りの語句	正しい訳	原因

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます